

重要文化財「表大門（赤門）」・「大練塀」保存修理工事の経過報告

表大門（赤門）

十日えびすの開門神事で有名な表大門。この丹塗りにあたり、まず錆金具裏に残された古い塗料を調査し、今回の塗りの色調整作業を行いました。その後は旧塗装を掻き落して素木に近い状態に戻しました。その際に北側押の懸魚六葉の裏から寛文・天保の記載がある墨書も新たに発見されました。（写真中央）

また並行して、長年の使用によって劣化が進んでいる正面の扉を外し、修理をしています。この扉は一枚当たり縦3.7m×横2.4m、重さは推定250kgで、特に木部の損傷が激しい右扉については扉を分解して、枠と呼ばれる部材を新しく交換しました。それ以外の部材は全て再利用して従来通りの工法で組み立てています。

表大門塗装工事は八月末完了予定となっております。色鮮やかに生まれ変わる表大門を楽しみにお待ちください。

※交換した古い右扉の枠部材は、現在社務所へびす信仰資料展示室で展示しております。◀

表大門 右扉の枠



丹塗り掻き落とし様子



墨書が発見された懸魚六葉



工事前の赤門

大練塀

日本三大練塀の一つに数えられる大練塀は、平成八年に阪神・淡路大震災の被害で倒壊した箇所を版築補修工事しましたが、現在二十四年が経過して原因不明の剥落が発生しています。

今回の補修工事でまずは剥落の原因を調査するとともに、大練塀を区間に分けて様々な工法で試験施工を行なっています。

試験施工の内容は、側溝・雨樋の整備・塀に撥水剤塗布などの環境的な部分と、版築土の成分構成を変えたサンプル作成・型枠を用いた版築・鏝を用いた補修など技法的な部分の両方を試しております。一年間試験施工の様子を見て最良の方法で、令和三年の十日えびす終了後に大練塀の保存修理工事を実施する予定となっております。



型枠を用いた版築部分



鏝を用いた補修部分



左 型枠を用いた版築 右 鏝を用いた補修



型枠を用いた版築作業様子



側溝整備



雨樋整備



●令和二年三月十日 中旬祭 社頭講話

蛭子大神と災難祓

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、神社では毎朝夕の日供祭において、「流行の疫病」が一日も早く鎮まるようにと祝詞奏上をしております。本日は主祭神である蛭子大神、えびすさまが災難・災厄を祓うというご神徳について紹介します。

「西宮大神本紀」という当社の神事を描いた絵巻物がありました。江戸中期頃の作で、昭和二十年の空襲によって残念ながら焼失してしまいましたが、現存はしておりませんが戦前のモノクロ写真等で絵巻物の概要を知ることができず、絵の説明である詞書は幸い、別本に写しが記されているので全文が判明しています。この絵巻物の中の一つに「西宮忌籠」と題するものがあります。「忌籠」とは、一月九日の深夜に、えびすさまが白馬に乗られ、氏子町内を巡行されるので、その尊いお姿を目にしたいならぬと、夕方から門を閉じ戸を閉め、更に簾を垂らして、家の中から外が見えないように

してじつと音も立てずに息をひそめて家に籠るもので五百年前には既に行われていました。またその時に馬上のえびすさまが傷つかれないようにと、門松の葉先を下に向けての慣わしもあります。これが西宮の忌籠の説です。一方、絵巻物では忌籠の由来を「西宮に住む邪神は毎年二月九日に生きる人を贄とするよう求め、人々は大いに泣き悲しんでいた。ここに蛭子大神が訪れ、九日は往来を留め、門戸を閉めて家中で潜まり、加えて松を伐つて門に逆さまに懸けなさい、そうすると邪神が恐れて来る事はないと。教えの通りにすると果たして邪神は来ず災禍を免れた」と災厄除けの由来を記しています。蛭子大神は福の神、大漁神、商売繁盛の神等として篤く信仰されていますが、またこのように災禍祓い、力を使わずして災いを避ける御教えも御神徳の一つといえるでしょう。皆様とともに祈りを捧げて、一日も早く終息するように願うところでございます。

■ 旬祭参列のご案内

毎月1、10、20日の午前10時から本殿にて、皇室 弥栄・国家繁栄等を祈願して旬祭を執り行います。

神饌をお供えし、祝詞奏上や神楽の奉納があります。所要時間は約40分です。その後官司以下神職が回り持ちで講話を致します。

拝殿にご自由にお入りの上ご参列下さい。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為6月末まで参列をご遠慮頂いております。





西宮神社の

今と昔

パネル展

えびす信仰資料展示室 第三十一回企画展

西宮神社のえびす信仰資料展示室
では、七月一日〜十月三十日まで第三
十一回企画展として「西宮神社の今と
昔」パネル展を行います。

今年度から展示室には、新たに江戸
時代の当社境内ジオラマを設置致し
ました。それに併せまして戦前、戦後、
現在の境内の写真パネルを対比して
展示致します。大きく変わっている所
や、ほとんど変わっていない所、それぞ
れを見つけて五十年から二百年の歴
史の移り変わりを感じ取って下さい。



7/1(水) ▶ 10/30(金) 9:00~16:00





EBISU

参拝のお帰りに立ち寄りしたい、立ち寄って頂きたい場所

えびすさまのお膝元にしのみや町あるき



昭和2年の創業当時から変わらないもっちりとした生地と塩味をきかせた自家製あんで作るエビス焼き。飽きのこない素朴な味わいで北海道小豆の黒あんと大手亡の白あんの2種。もう一つの看板メニューであるミルク味の自家製ソフトクリームと共に是非ご賞味下さい。



エビスヤ小松商店

住所 西宮市馬場町2-23 ワークヒルズ馬場町ビル101
電話 0798-34-0828
営業時間 10:00~19:00
定休日/火曜

西宮神社の門前にお店を構えて今年の春で10周年を迎えます。ご参拝の際、出汁にこだわり旬の食材を吟味した日本料理をご賞味下さい。



だしの店 つみ木

住所 西宮市馬場町6-20 東急ドエルアルス1F
電話 0798-22-0072
営業時間 11:00~14:00、17:00~22:00
（ラストオーダー21:30）定休日/水曜

◎福にまつわることば 五

「惜福・分福・植福」

明治時代の文豪幸田露伴が自著「努力論」で、幸福を引き寄せるには「惜福・分福・植福」（幸福三説）という工夫が必要であると述べています。

「惜福」とは福を惜しみ、自らに与えられた福を取り尽くさないことです。「福過ぎて禍生ず」とあるように、身の丈以上の福は災いとなってしまうます。与えられた福を取り尽くしたり、使い尽くしたりしてしまわずに身の丈にあった福で十分と満足する心が大切です。そうすれば不思議とまた福は巡ってくるものです。

「分福」とは「うまい酒ほど他人と一緒に飲め」という諺もあるように、福を人に分け与えることです。惜福と分福は互いに表裏をなしており、惜福で残した福を、分福で他人に分け与えることができるのです。自分から福を分け与えれば、人もまた自分に返してくれるものであり、周囲を幸福にすることが自分の幸福につながります。

「植福」とは将来に向けて「福」の種を植えることです。福の種を植えるとは、自分の力・情・智をもって、人の世に幸福をもたらす物質・情緒・知識を提供することです。今日のような社会が成り立っているのは、我々の祖先が汗を流し、苦勞して植福したお蔭です。社会・子孫達の為に様々な「福」の種（正しい努力）を社会に蒔くことによって、それがまた自分の福としても巡ってくるものです。

過去に自らが蒔いた種が今の自分を作っているのです。過去を書き換えることはできませんが、今から「福」の種を蒔き続ければ、幸福な未来に繋げることが出来ます。

いずれにしても「福」は独り占めするのではなく、人と分かち合い、人の為に使うことが大切です。

悪い疫病が世界中に蔓延している今、皆で福を取り尽くさない惜福を心掛け、手を取り合い福を分け合い、明るい未来に向けて植福をして大きな幸福に繋げたいものです。

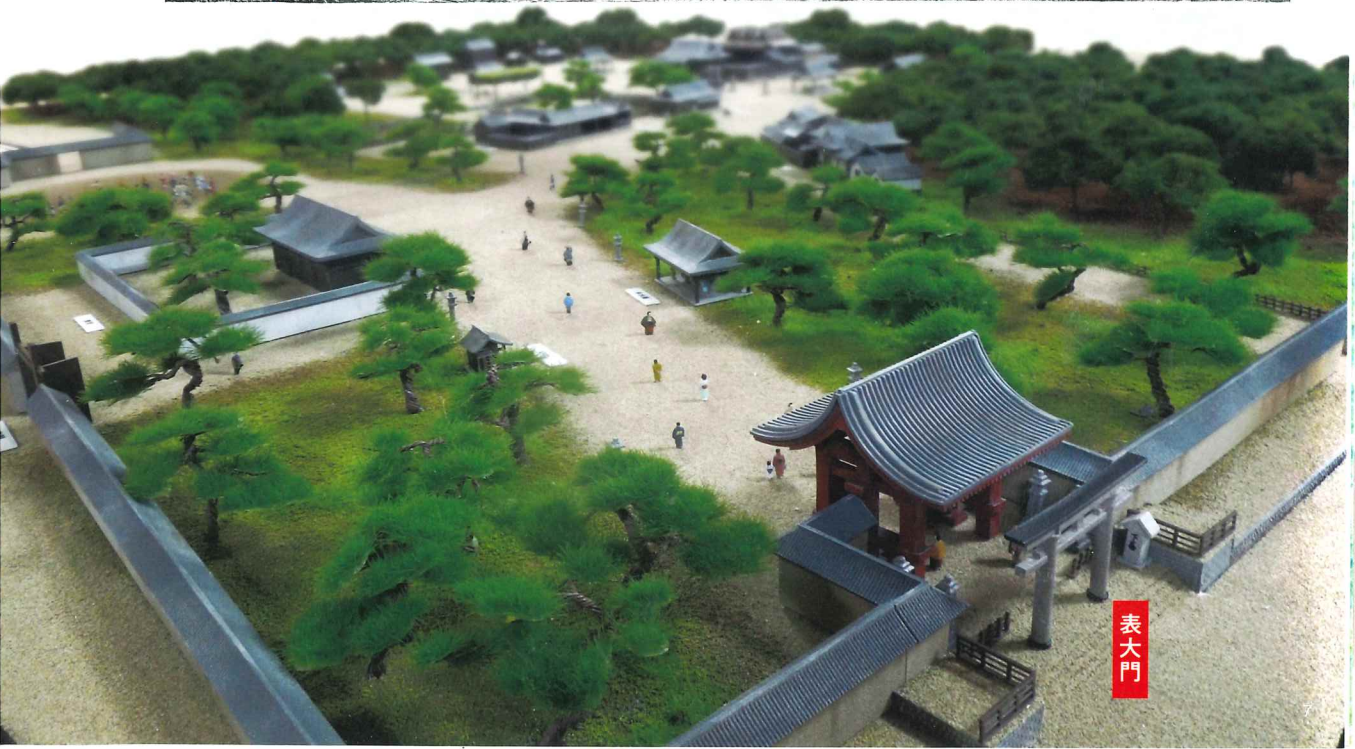
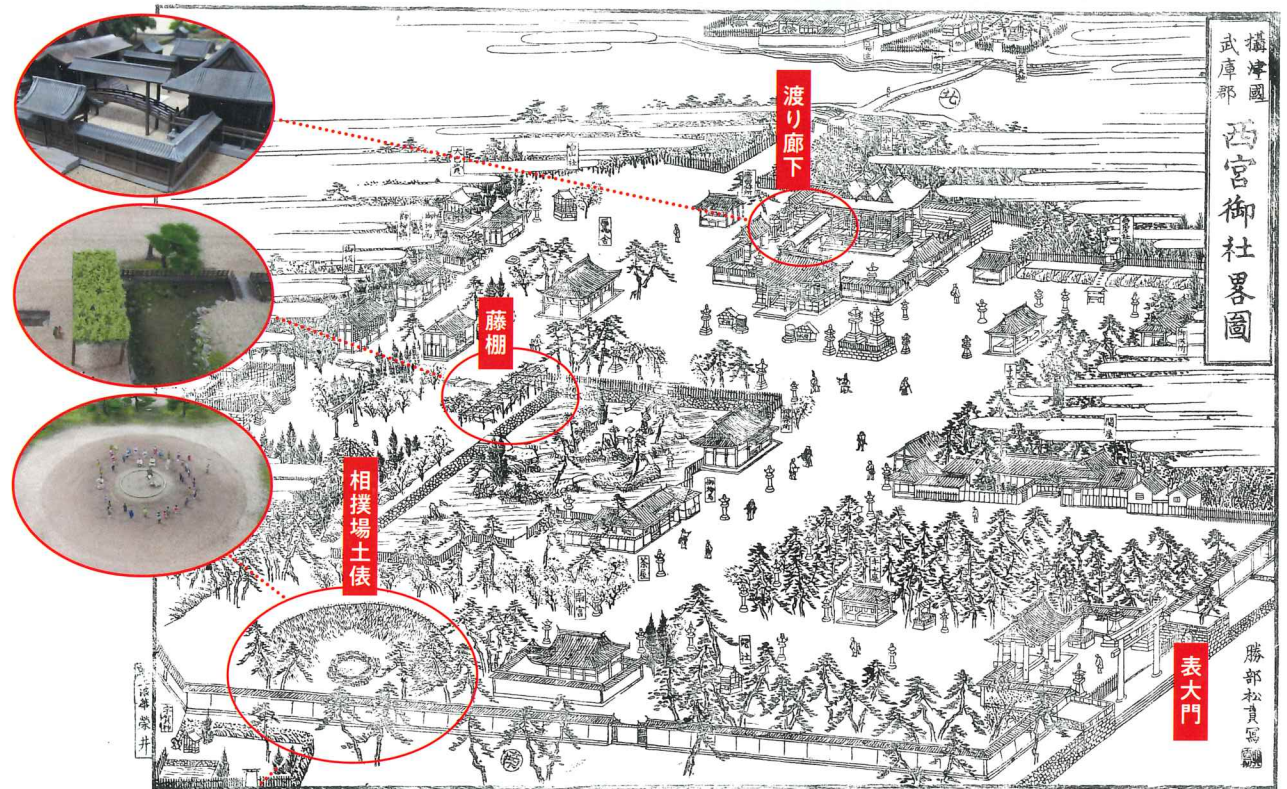
ジオラマ

西宮神社江戸時代境内模型の展示

この度新たに江戸時代の境内模型（ジオラマ）を西宮神社えびす信仰資料展示室に展示しています。

このジオラマは、西宮の絵師である勝部松貫かつべ しょうかんが描いた「摂津国武庫郡西宮御社略図にしのみやおんしゃりやくず」をもとに製作しています。

現在の境内と比べると、駐車場に相撲場、本殿西側の森に北に抜ける参道、本殿と拝殿が渡り廊下で繋がっている等の違いや、現在も残っている神池西側の藤棚が描かれていたりします。ご来社の際にはぜひご覧頂き、現在と江戸時代の境内との違いを探してみてください。



文化研究所だより

(十三)

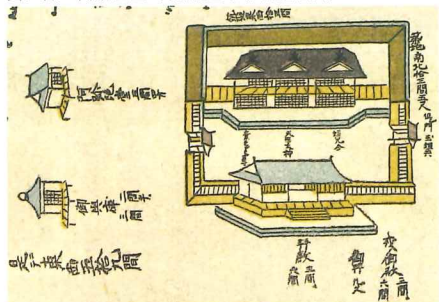
描かれた西宮神社

社務所内のえびす資料展示室に大きなジオラマが展示されています。江戸時代後期に勝部松貫が作成した版画「西宮御社略図」を元に、当時の境内の様子を立体的にご覧頂けるようになりました。

勝部家は西宮在住の画家の一族で、松貫のおおじに当たる勝部如春齋は、摂津を代表する画家でした。松貫も勝部家の画統を受け継ぎ、略図とはいえ、社頭の諸殿社等を精緻に描いており、ジオラマ化する上で貴重な素材となりました。

このような西宮神社の境内を描いた絵図は、「西宮御社略図」の他に数点確認できます。貞享三年(一六八六)作成の「広西両宮絵図」もその一つで、現在は広田神社に所蔵されています。

図1: 右に本殿、左上に阿弥陀堂(広西両宮絵図)



そもそも絵図が作られる契機には、住人の間で土地や水利権等の揉め事が起きた際、幕府や藩が現状を把握するため作らせる場合が少なくありません。この絵図も神職、西宮町人、周辺村の庄屋年寄が共同で作成し、大坂町奉行所に提出しています。提出に至った具体的な理由は不明ですが、

西宮神社の境内図としては現存最古の絵図はこうして作られることになりました。

さて本絵図の特徴は、

境内に阿弥陀堂や不動堂等の仏堂舎が描かれていることです(図1)。現在授与所前に据え置かれている、慶長十五年(一六二〇)銘の銅鐘を吊していた鐘撞堂も描かれています。江戸時代までは神社の境内に仏教関連施設が存在するのは珍しくなく、神仏習合を具現する風景だったと考えられます。

一方で、神仏習合を否定する思想も神社界に浸透します。享保三年(一七二八)には阿弥陀堂が取り壊され、享保二十年(一七三五)には不動堂内の不動絵像が破棄されます。その後不動堂には、疱瘡守護神として大己貴命と少名彦命を勧請し、境内の仏教色は一掃されました。境内の風景が劇的に変化しただけではありませんが、こうした小さな変化を目で読み取ることができるとは、絵図の大きな魅力と言えるでしょう。

また広田・西宮両社の境内図としては、西宮本町の乙馬忠右衛門が描いた絵図があります。広田神社が昔の位置に描かれているので、現在地に移転した享保十二年(一七二七)以前の絵図と考えられます。もっとも描写自体はかなり簡素で、本殿と南宮以外にあまり関心が向けられていません。忠右衛門は大坂・明石間の名所を紹介した「道筋名所記」(年代不明)を出版しているので、絵図はその附録だった可能性もあり、「広西両宮絵図」とは異なる目的で作られたと考えられます。

そして西宮神社に注目して描かれたのが、寛政十年

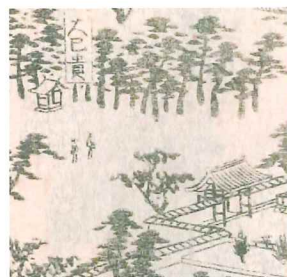


図2: 左上に大己貴社、右下に表大門(撰津名所図会)

(一七九八)に秋里籬鳥が著した「撰津名所図会」中の挿絵です。絵師は大坂で活躍した浮世絵師の竹原春朝齋で、秋里・竹原コンビが名所図会の形式を確立したとされています。

この絵図の特徴は随所に見られます。例えば本殿から拝殿にかけて渡廊が架けられ、本殿と一部の社殿以外は瓦葺で描かれています。また池の東側に建物物が描かれ、神楽所と参詣者相手の茶屋と考えられます。さらに表大門(赤門)近くに大己貴社があり、かつての不動堂の姿がうかがえます(図2)。



図3: 阪神・淡路大震災で倒壊した絵馬殿(撰津名所図会)

他にも本殿の左側に「画馬舎」(絵馬殿)が描かれています(図3)。西宮神社の社用日記によると、宝暦十三年(一七六三)に多くの人々の尽力によって、三十年来の悲願だった絵馬殿が完成しました。上棟の際には、西宮内外の氏子がかぞって境内に参集し、大いに盛り上がったようです。こうしたエピソードを知った上で、春朝齋が描いた三十年後の絵馬殿を見ると、当時の興奮が眼前に広がる思いがします。

そして現存する江戸時代の境内絵図の掉尾を飾るのが、冒頭に紹介した勝部松貫の「西宮御社略図」です。松尾神社、広田遙拝所、相撲場等の新たな記載や、大己貴社の移築といった特徴が多々見られますが、敢えてここで筆を置きたいと思います。今般の新型コロナウイルス禍が落ち着いた際には、是非展示室のジオラマに足をお運びくださり、令和の社頭とは異なる、往事の西宮神社を目で感じて頂ければ幸いです。

(西宮神社文化研究所主任研究員 戸田靖久)

参考文献 吉井貞俊「西宮神社と絵図」(えびす信仰その風土 国書刊行会一九八九)

社頭より

郵便によるご祈祷 申込みのご案内

遠方にお住まいの方やご事情により直接来社が叶わない方々のために、郵便によるご祈祷を受付けております。ご希望の方は電話にて西宮神社までご連絡下さい。



●お申込みの流れ

当社にお電話下さい。
(0798-33-0321 担当祭祀課)

当社より振込用紙を送付致します。通信欄にご祈願内容をご記入の上、郵便局でお支払い下さい。
ご祈祷料は
個人五、〇〇〇円
法人二〇、〇〇〇円より承ります。

ご記入例

振替払込請求書兼受領証	
01130-6	15898
西宮神社祭祀課	
西宮太郎 様	

払込取扱票	
01130-6	15898
西宮神社祭祀課	
*祈願内容 (〇で囲んで下さい) (商売繁栄、事業繁栄、家内安全、大漁満足、海上安全、厄一除、合 格、学業成就、開運招福、心願成就、良縁成就、消災平安、報賽(お礼)、その他) 特別招福祈祷 (5万円)	
462 0974 兵庫県西宮市社家町1-17	
西宮太郎 様	

ご入金確認後、御神前にてご祈祷を致し神札・撤下品をお送り致します。

初宮詣のご案内

お宮参り(初宮詣)とは、神様にお子様の誕生を報告して健やかな成長をお祈りする神事です。地域で違いはあり生後三十日過ぎにお参りすることが多いのですが、西宮では百日目にお参りする百日参り(ももかまいり)の風習があります。

またご祈祷を受けられた方には、お子様のお名前を刺繍した特別のお守り、境内にあるお子様の守り神である百太夫神社前にてお子様の無病息災をご祈念して額に白粉をお授け致します。お子様の体調・ご家族のご都合の良い日を選んで是非お参り下さい。



お子様のお名前を刺繍したお守り



百太夫神社にて白粉を授与

●ご祈祷料
五、〇〇〇円より承ります。

- 一〇、〇〇〇円以上の初宮大祈祷をお受けの方は
- ① 祈祷時に巫女による神楽の奉奏を致します。
 - ② 満三歳のお誕生日まで三回お守りの内符をお送り致します。



顔写真入り記念色紙進呈

御神影額のご紹介

御神影札(おみえふだ)とは、えびすさま・大国様・田の神様のお姿を現した透かし入りのお札です。

寛文三年(一六六三)四代將軍徳川家綱公により御造営された当社本殿の継続的維持のために、徳川幕府より『正像』としての版權を得て、現在まで全国各地で頒布されています。

● 神棚を設置しづらい現代住宅に適した据え置き型の額です。

● 一神用には、背面に吊り金具が付いていますので、吊り下げておまつりする事もできます。

● 額本体は両面アクリル仕様です。で、本社の『正像(正式のえびすさま)』たる透かしが良く見えます。

● 御神影額のお問い合わせ先

〒662-0974 西宮市社家町1-17
えびす宮総本社 西宮神社
担当 講務課
TEL.0798-33-0321
FAX.0798-33-5355

Eメール info@nishinomiya-ebisu.com

メールでご注文の方は、額の種類・数量・御神影札の有無等記載下さい。



おまつりする
御神影札は
別途お求め下さい。
(各体五〇〇円)



2神用2,000円(送料込)



1神用1,000円(送料込)

えびすの森 植樹式



平成三十年九月に発生した台風二十一号の影響で、兵庫県天然記念物に指定されている当社えびすの森も本殿裏のクスノキの大本木が倒木する等大きな被害を受けました。
令和二年四月二十二日に西宮恵美寿ロータリークラブ様からの寄付金で被害が大きかった本殿裏社叢の整備・植樹式を執り行いました。
今回の植樹式では次世代のご神木となるようなクスノキ、また森の多様性を高めるために新たにナナメノキ・シロダモ・ヒサカキを植樹しました。

和田岬神幸中止について

西宮神社では、えびすさまが神戸の和田岬よりご出現されたとの伝承に基づき、古来海上渡御祭を執り行っています。織田信長の社領没収を受け中断を余儀なくされましたが平成十二年に四〇〇年ぶりに海上渡御祭が斎行されました。そして令和元年は海上渡御祭再興二十年の節目の年にあたり、和田岬まで全船団での海上渡御の計画を進めておりましたが、台風の影響により止む無く中止となりました。

多くの方々よりご協賛を頂戴しましたので、本年改めて和田岬への海上渡御の計画を進めておりましたが、昨今の新型コロナウイルスウィルス感染拡大を鑑み、和田岬神幸の中止を決定致しました。

新型コロナウイルス感染症が終息しましたら、改めて和田岬神幸の計画を進める予定でございます。ご協賛頂きました皆様には、ご理解ご協力の程宜しくお願い致します。



こんどの七五三は しっかりオシャレして えびすさまに お参りしましょ♪

衣裳・お着付け・写真・お食事
大切な祝いの一日は西宮神社会館にすべておまかせ。
七五三パック 貸衣裳・着付ヘアースセット 写真(一式) お母様のヘアースセット・着付前撮り・スナップ写真も承ります。
¥36,000

七五三衣裳展示ご予約会
7月4日(土)・5日(日) 8月22日(土)・23日(日)
7月23日(木・祝)・24日(金・祝) 9月19日(土)・20日(日)

会食・着付受付開始は7月1日(水)より
※新型コロナウイルスの影響により日時変更の場合がございます。



※写真はご会食プラン¥8,500(会席料理)
ご会食プラン¥8,500 (会席料理) | **御膳料理 ¥6,000** | **お子様料理 ¥3,500**

info@jinjyakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

●七五三祈祷料/1人 5,000円(兄弟姉妹の場合2人 8,000円 3人 10,000円)

ホームページで
西宮神社の最新情報を
ご覧ください。

西宮神社 公式サイト 検索
<https://nishinomiya-ebisu.com>



西宮神社
公式サイト
QRコード



(左図 百太郎神号)
参拝の折には、是非えびすさまごともに百太郎神社にもお参り頂きまして、疫病早期終息をお祈り頂ければ幸いです。疫病が一日も早く終息し、世界が穏やかになりますようお願い申し上げます。

編集室から
十日えびすが終わった頃より、新型コロナウイルス感染症が中国武漢から、瞬く間に世界中に広がりました。日本でもGW前に全国に緊急事態宣言が発出されて、皆様も外出自粛を余儀なくされたこと存じます。当社も四・六月の神事については神職のみの奉仕となり、各行事も残念ながら中止となりました。
当社境内末社の百太郎神社は芸能の神子どもの守り神として崇敬されていますが、江戸時代に疱瘡(天然痘)が流行した際に、病に伏した八代将軍徳川吉宗公に西宮神社神職の進言で百太郎神社の神号を祀った『海録』(近世後期儒家山崎美成著)に記されており、流行病に霊験のある神様とも信じられてきました。